



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ⑬

「安定的支給ベースとは営業収入が安定的」？ 会社が勝手に見解を歪める！

10月30日に開催された年末手当第2回団体交渉で会社は、安定的支給ベースの見解を勝手に歪める発言を行いました。

◆安定的とは、会社の収入が黒字で安定的であるということ。今決算で赤字を計上したので、安定的ではない。社員の期末手当の支給のことではない。

何とふざけた見解ではありませんか。この間、期末手当団体交渉において、好調な業績にも関わらず会社は、以下のことを主張してきました。

◆安定支給をしていくことが良いと考えており、業績が上がったら上げろ、業績が下がったから下げろとなるのか（2019年度年末手当団交）。

◆会社に何かあった時に、ボーナスも減らしましょうということが、社員が入社して退職するまで、やりがいをもって働くことに繋がるのかというと、会社はそうではないと考えるので、一定程度の水準でも、安定的に支給することが大事だと考えている。業績が悪化した時に安定した手当が保証されているのは安心できることだ（2018年度年末手当団交）。

私たち社員は、業績が良くても、安定的支給ベースを理由に賃金を抑えられてきました。安定的とは、読んで字の如く、支給ベース＝期末手当をことを指すことは言うまでもありません。そもそも、安定的支給ベースという言葉を使ったのは、紛れもなく会社です。会社は、団体交渉で「3. 5ヶ月出しても倒産することはない」と言いました。つまり、3. 5ヶ月出す体力はあるのです。

全社員の皆さん、職場から怒りの声を上げようではありませんか。JR東海労は、会社の誤魔化しを許さず、満額回答まで闘います。

**JR東海労はコロナ禍を理由に労働者へ
我慢と犠牲を強いる会社を許しません！**